
寝床で

妙 ちひろ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

寝床で

【Nコード】

N2744Y

【作者名】

妙 ちひろ

【あらすじ】

犬が吠えて、いままでだったら「ワン」とかって脳みそで片付けるんだけど、英語ばかりやってたら「BOWBOW」って変換されるんだな。なんにせよ自分のやりかただけどき。

小説なんか読めないよ。

だって登場人物も語り手も、勝手に もちろんすべては作者の思惑で、世界で、だから誰も傷つくことはないはずで、そうしてその事実は無論なにかを読んだりするということはその作者自身の表現を受けるということであるから、だから作者に恋をすればいいと思った。あくまでも作者は人間で、それが日記やエッセイではなく小説という架空的な社会の話であるから、小説は、一個人の話ではなく人間自体を見ることができるといつても過言ではなかった。だけれども傷つかないし、そのなかでの幸福や不幸は作者自身の価値観であつたから、だから読むことなんてできなくなった。勝手に、ほんとうに、勝手にしか言えないのだけれど、その勝手にじぶんが疲れた。自分は、おなじようになにかを書いたりすることにも疲れ切つていた。それは、表現であつて、そこに他人がどうおもつたかという感想や意見を求めることはなによりも他人がどう考えているかを知りたいからだということに気がついた。

好意はすべて好奇心でした。知的好奇心などという分類もなく、すべて好奇心でした。わたしは若い、若かった、そういわれる所以であるのだと思うのだけれど、だから純粋に傷つくのです。期待してないのに傷つくのです。なんのおこないもできないのです、すべて、すべて、言葉はもとより社会から習っているのに、社会からの影響を受けて生じる感情は自分のものに他なりませんので、それを言葉に変換するにはとてもじゃないけど限界があつて、でも言葉しか知らないからいけないんだ。

物理も化学も生物もすべて、人間の解釈の仕方をならう科目であつた。文系なんてもつてのほかだった。もう文系は嫌だと思つた。大半の哲学も、しんどい。なぜならやはり個々人で条件が違うので、共有も批判もできるはずがないから。すべては自分でしかないし、

そうだ、プロタゴラスは「万物の尺度は人間」なんていったけど、「万物の基準は自分」であるとなたしはおもうよ。だいたいギリシア語だし、翻訳の過程で誤差があったとして、わたしがいくらギリシア語を習ってもその当時の背景を学んでも、それは歴史のまえでは21世紀の見方にしかなりえないから絶対的な理解は不可能。それは、目の前のあなたをどうしてもあなた以上に知ることなんてできないというのとおなじことです。

ばかばかしい話なんだがしかし目の前のあなた方はわたしに好意を示してくださります。そうして、自分も、応えたく存じます。これはおそらく赤ん坊に微笑んだら微笑み返してくれるのと同じ作用でしょう。ミラーニューロンの働きでしょう。しかし、その働きもつきつめれば人間の解釈は電子のやりとりにはかなりません。けれど、それがなんであるかはわかりません。自分の問題です。ミラーニューロン云々はこの間模擬試験の英文にでてきたことなのに、この言葉がなかったらどう説明しますか。言葉で、スムーズに、やりとりはできないのです。スムーズな表現ができるというだけです。受容体がなかったら感覚は取り込めないのと同様です。酵素がなかったら分解できないのと同様でしょう。

さてさてね、あなたがたの話。なんでそんなに言っしてほしいことわかるのみたいに「なんでこころ読むの?」なんて言うでしょう? わたしだって馬鹿じゃないから信用しませんよ、まあなんにせよ おせじも嘘もばれるという前提で行ってるんでしょうよ、ですが暴かれるとわかってても使ってしまうんだから、ひとつて優しいね。わたしはほんとうのこと以外申しませぬ。ほんとは、自分のなかでのほんとうであるからあとには知りません。知りません知りません。ですがあなたがた、わたしならあなたがたを大切にしてくれるとかおもっているのでしょうか、ねえ だれも信用してないわたしに優しくしますか? いやいやほんとうに白痴が見破れないの? じぶんの感情整理するのに必死で、外に目を向けられない? ほんと容量わるいなあ、もつといういろいろ考えることとかできないの? だってぜん

ぶ簡単に扱えちゃうしさあ、なんでこう思った通りになるかなあ、簡単なあ。それってあなた方とわたしが同じだつてことに他ならないよね、きつと。だから自分が一番単純だつてこともわかってんだけどさ、それともあれかな、やさしいあなた方はわたしを満足させるために演じてくれているのかしら？いいや、演技は見破れちゃうからそれに乗ってやるのだつて、つらいんだぜ。あんたがた優しくて、なによりあんたがたもあんたがたの問題があるから余計な面倒起こしたくないよね、だからやさしいことばでさ、もうやわらかい言葉で慰めてくれるしわたしを笑わせてくれるけど、ただど笑うという選択をしているのはわたしじしんの冷静さなんだ。いや、こんなこと言わなければだれにも分かんないよね、あなたがたも言っていないだけでさ、そういうところ、あるんじゃないの？きつとあるよねでもいえないよね。だから馬鹿だと思われるんだよ。いやもちろん、時と場合を社会のなかでは考える必要があるからわたしだつてそれに従つて行動してるよ。社会つて、面倒？そうもおもわないよ、あんたがたが考える低俗なことなんざまったく考えてないね。ほんと、ただどあんたがたの思惑通りに行動していたほうがいいのさ。わたしだつてめんどろなことはないから。

面倒さが他人の面倒さを招くことをなによりおそれているからさ。もう自我が社会に、人に、癒着しているんだ。

これはひどく危ういことだよ。自閉症は他人と自分との理解の異なりがわからないんだ。それつて、愛情と似ていない？愛情をあたえるときには絶対的に自分への信頼があるよね。愛情を返す返さないではなく、そんな損得勘定のまえにあるのはなにより自信でしょう。いや、尺度とはそんなもんだよ。それを考察しているうちにタイミングなんて過ぎていくから使えなくなるね、そうになったら冷たい人間さ。言葉を学べなくなるかな社会から疎外されちゃあ、もう癒着しているわたしは生きていけないよ。だからそんなことないように媚売つて、ね、女つて売女ね、とかつて言えばいいのかしらね、ただどそれを言っちゃあおしまいだよこんどこそ。やはり白痴を押し

通すよ、ね。

とはいえ常に変化はしているのだから、いちいち自分のことを訳すのもどうかしているのかもしれない？

いいや そんなことはないよ。だって表したものが社会に出るんだから。

社会に出たものしか分からないんだからさ。だって価値観も社会のそれから学ぶんだもんね、あんたがたさ。

もうだめだ、いい加減、すぐに傷つく自分がさ。もう、だって自分が傷つきやすいから他人の辛さもしんどさも、もうそれしか見えなくって、辛いんだ。侘びしいんだ。ほんとどうすりゃいいんだろうみなさんごめんなさいとも言えないよ。だって言ったら他人の優しい振る舞いが台無しになっちゃうもん。

ばかみたいなんだけど英語の先生を生理的に嫌悪してしまって、もう夜悪夢を見て寝るのが怖くなって学校行くのは足がすくんで、過呼吸おこしちゃって、いざ授業になると鼻血だしちゃって、ださな いまでも鬱になって、それによって適当にしか授業受けられなくな っちゃったのが、その大嫌いな先生を始め、ア両親にもクラスの子 にも申し訳なくて。ほんと、ちゃんとできなくてごめんなさいごめ んなさいごめんなさいってそれだけで、だけどそれを言っちゃった ら許してくれてる優しさに、寛大さに、申し訳ないからだサボっ てるふりをして、だけど怖くって怖くってどうしようもないんです。 ごめんなさいこんなんで、ほんと、なにも、やりたいことも時間の 過ぎし方もわかんなくてどんどんちゃんとできなくなっていって、 迷惑かけないようにやっていきたいです。それだけです、みなさん ごめんなさい。わたしは、わたし自身が消えるべきだとも思います し、実のところ未練なんて幸福なものもございません。なにを言わ れたって嬉しくないし、困ってしまうし、だってその通りに振る舞

わなければならぬから、相手の望むとおりには、ただでできなくてだめだから、消えてくれればいいのです。消えなくちゃいけないに勇気もなく、死ぬのが怖いんじゃない、死ねないのが怖いからごめんねって、ほんと、ごめんなさい。

最初っから依存してる環境だったし、そこから離れるの怖いから、他に環境を知らないから、あなたがた愛していたりします。だからわからないんです、怖い不都合も。

病気とか、わかんないけど病気だって言うならそれでいいけど、自分は世の中に病気も障害もないとおもうし、神経を失調しててもきつとおなじように、自分と同じように愛しちゃうだろうなあ。だって怖くないし、ネズミもゾウもトカゲも、あなたがたヒトも、わからないから。好奇心だけじゃわかんない、どう考えても自分ではないから、だからそんな存在に対する畏敬は、生命の慈しみかたは、たとえばだれが分かるだろうか、意識しているだろうか。

木だって海だって、なにか うつくしいとおもう感性だけ。わたしの感性をあなたがたが愛するならば、あなたがたにもその要素はあるのでしょうか、なんで どうして寄ってくるの？それともわたしが、顔かたち整ってるから？ねえなんで彼女とか連れてんのに寄ってくるの、からかいとかじゃなくて、なんで、横目とかしつこいよ、もうやめて、なんですぐに「どんなところにお嫁に行くんだろう」なんて、父性愛かな母性愛かな、大人ってそんなもん？だけどわたしもあなたがたのこと愛してるからなんにも言わないけど、だいたい嫁さん欲しがってるひとのところになんて行かないよ。

優秀な外科医とか薬学系とか化学系の教授に一生くっついてまわっているんなこと教わりたくないよ。自分は常にわくわくしていたいし、なにか知って、そうだね脳の状態で示せば様々な物質がどばーっと分泌されてる状態が好きなの。活き活きしてる状態が好きです。准教授になりたいです、だけど、そんなに自分が付いて回りたいとおもう人はたいてい疲れていて、いえその疲れてる感じに惹かれてん

のかどうか分かんないけどなんか病んでる或いは病んでたひとつで、居心地いいなあ。

なんにせよ同時に自分は相手を傷つけてますよ。だけど相手のことが好きだから申し訳なくって。ごめんねごめんね、ほんと、無生物相手に「この子」って言ったら嗤われちゃったよ、なんで？

もうみんな可愛くってね、仕方がないのね。きらきらしちゃって、いえね、自分がですよ。あははっ、もうだめだ、螺旋。決してメビウスの輪じゃないの。螺旋、あるいは原子モデルの惑星軌道図みたいに、どんどん広がってっちゃって、世界の形で上昇も下降もないのに螺旋みたいで、あ、うずまきのフィボナッチ数列。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2744y/>

寝床で

2011年11月15日01時34分発行